

海外メディアによる被災地取材（中南米諸国）

2012年1月29日から2月6日、「東日本大震災後の復興に向けた日本の歩み」をテーマとする記者招へいプログラムにより、中南米諸国から10名の記者が訪日し、被災地での取材を行いました。

1. 福島県では福島県農業総合センターを訪問し、福島県産農産物・水産物の放射線検査の体制や、福島県産牛の全頭検査の状況について説明を受けました。



福島県農業総合センター



同センター取材の様子

2. 宮城県では、村井宮城県知事にインタビューを行ったほか、仙台市宮城野区の仮設住宅に隣接して建設された共用スペース「みんなの家」で、被災者の方々のお話をうかがいました。また、東北大学震災復興研究センターにおいて、地域産業復興支援事業や日本列島を囲むプレート状況等についてご説明いただきました。名取市北釜地区では、海岸林再生プロジェクトを取材しました。



村井宮城県知事インタビュー



「みんなの家」取材の様子



東北大学震災復興研究センター



海岸林再生プロジェクトの取材の様子

3. また、宮城県の良い観光地、松島の瑞巖寺を、震災時の状況について説明もうかがいながら見学し、さらに岩手県では、世界遺産に認定された平泉も取材しました。



瑞巖寺，平泉の取材の様子

4. こうした取材の結果、以下のような記事が掲載されました。

●エル・ユニヴェルサル（メキシコ）

3月4日付「日本及び三重の災難の挑戦」、3月5日付「5メートルの黒波」、3月6日付「原発事故後の信用の回復」、3月8日付「日本はメキシコの連帯に感謝」、3月13日付「ポケモンVSブッダ」

●ディアリオ・エクストラ（コスタリカ）

3月12日付「日本の復興には5年かかる」、3月13日付「原発事故後も日本経済は立ち上がる」、3月14日付「支援の津波が日本に届いた」、3月15日付「津波を生き延びた」、3月16日付「東京スカイツリー：世界で一番高い塔」、3月17日付「前進するための鍵は日本人の不屈の精神」

●ラ・エストレージャ（パナマ）

3月11日付「津波の後」「『みんなの家』、避難所」「放射能に汚染されていない食べ物」「鍵は住民の教育」

●オブザーバー（ジャマイカ）

2月1日付「東京、都心部超高層ビルに賭ける」「日本、脱原発に努める」、2月3日付「トヨタ、カリブ地域への供給が滞ったことを残念に思う」、2月5日付「日本におけるジャマイカブランド創り」、2月8日付「ユネスコ、古代の寺院で観光振興」

●エクスプレス（トリニダード・トバゴ）

2月27日付「震災後の日本、忍耐強さの教訓」、2月29日付「日本の未来におけるトリニダード・トバゴの位置」「中国は中国、日本は日本」、3月8日付「新幹線、ハイテクな便座・・・日本人はスタイルのある生活を送る」

●エル・ナシオナル（ベネズエラ）

3月11日付「日本の新たなエネルギー政策がベネズエラのビジネス・チャンスを開き」、3月12日付「外国投資の成長は『治安』改善が条件」

●エル・ティエンポ（コロンビア）

3月11日付「日本、必ず起き上がる国民」

●フォーリャ・デ・サンパウロ（ブラジル）

2月24日付「日本、食肉の安全性を世界に証明するために放射線量を測定」、2月26日付「日本の東北地方は津波の後、人口危機に対峙」、3月11日付「世界一のタワーが東京の新名所に」、3月12日付「北日本における観光の再生をめざす」「事故により岐路に立たされる日本政府」

●ラ・テルセラ（チリ）

2月6日付「仙台に残ったチリ人、震災からの1年を語る」、2月19日付「津波後、北釜にただ一軒残された家」、2月21日付「東京、世界一高いタワー開業間近」、3月4日付「村井宮城県知事、『復興完了まであと9年の歳月が必要』」「仮設住宅に暮らす2万人はどのような生活をしているのか」

●クラリン（アルゼンチン）

3月11日付「こんな恐ろしい思いをしたのは初めてだった。子供達が怪我をしていないかと思った。（在日アルゼンチン人インタビュー）」